



朝霧の たなびく田居に 鳴く雁を 留め得むかも 我が宿の萩

10月の万葉集 巻19-4224 光明皇后

(朝霧がたなびく田に鳴いている雁(かり)を引きとどめることができるでしょうか、私の家の萩は)

手は頭をつくる!

10月に入り、朝夕は一段と涼しさを増し、毎年のように町の木であるキンモクセイのかぐわしい花の匂いが家々の庭先から漂ってきます。また、田んぼに目を移せば黄金色に色づいた稲の穂が今が刈り入れ時と言わんばかりに秋風になびいています。

新型コロナウイルス感染症の第7波も一時期のことを思えば感染者の数も少なくなってきたように思いますが、まだまだ油断できない状況です。学校園ではこれまでと同様に徹底した感染予防対策を施した上での教育活動を進めてもらっています。

10月と言えば運動会・体育大会の時期で、10月1日(土)には東小、北小、真美二小の3校で、5日(水)には広陵中、真美中で行われ、それぞれの学校で子どもたちが持てる力を精一杯出し切って楽しんでいたとの報告を受けています。幼稚園・こども園の運動会は8日(土)に、西小と真美一小は29日(土)に行われます。子どもたちにとって、一つの行事に取り組み、「精一杯がんばった」「友達と力を合わせてやりきった」など、達成感、成就感を味わってもらうことが学校・園行事の目的であり、醍醐味であると思います。

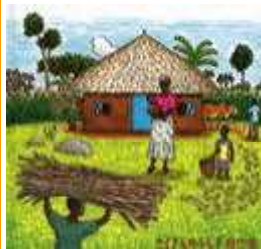
ところで、7、8年前になるのですが、ある本を読んでいてとてもいい話があったので以下に記します。

それは、「手は頭を作る～エンザロ村のわらじ～」という話です。

日本の「わらじ」が、アフリカのケニアにあるエンザロ村で小学生に履かれています。日本で今、わらじを履いて登校する子どもはいません。ところが、彼らは、私たち日本人がかつて日常的に履いていたわらじと同じものを、自分たちの手で作って履いているのです。ただ、エンザロ村では稲作はしていないので藁(わら)はありません。代わりに現地に生えている繊維の長い植物(バナナの木や皮、トウモロコシの皮、パピルスの茎など)を使っています。できたわらじを履いて歩くとペタペタと音がすることから、現地では「パティパティ」と呼ばれています。

このわらじの作り方を教えたのが、かつて、国際協力機構(JICA)の岸田袈装(けさ)さん(岩手県遠野市出身)でした。

(残念ながら岸田さんは12年前にガンでお亡くなりになられたそうです。)ケニアでの地域医療や教育に30年以上を捧げられた岸田さんは、エンザロ村の診療所で医療プロジェクトに携わっていました。靴や履き物が普及していなかった地域です。子どもたちは裸足で歩きます。裸足で地面を歩いているうち、足の傷からコレラ菌を含む汚水が入り、多くの子どもがコレラに感染して命を落としてしまうという悲しい実態がありました。



そこで岸田さんは、この衛生状態改善のために自分のふるさとで作っていたわらじを思いつきます。エンザロ村の小学校で、日本のわらじの編み方を教えることにしました。子どもたちは自分の手を使って、わらじを編み、それを履くようになった頃、足からのコレラ菌の侵入

を防ぐことができ、コレラの発病が激減しました。さらに、わらじは思わぬ成果をもたらします。それは、わらじづくりが始まると、子どもたちの学力もぐんぐん向上してきたのです。そしてついには、そのエリアの学校で一番の学力を持つ学校に変わったそうです。

順序立てて繊維を編み、自分の足に合った大きさに完成させるという経験、そして何よりも自分の力で自分の生活を改善できるという実感が、子どもたちの学力にもすばらしい影響を与えたのです。このように体験を通して子どもたちの「力」が伸びていくことを、岸田さんは「手は頭を作る」と表現しています。

また、「手は第二の脳」と呼ばれ、手先の器用さが意欲を引き出し、脳の発達に影響を与えると同時に、指先の感覚の発達は言語の発達にも関係していると言われています。要するに、手先を器用に使う、そして手を含む五感を総動員して、自分の身の回りの課題を具体的に解決する学習こそが、本当の「生きる力」を育てる近道ではないかと思えます。



今月の一言

人生は「見たり」「聞いたり」「試したり」の3つの知恵でまともになっているが、多くの人は「見たり」「聞いたり」ばかりで一番重要な「試したり」をほとんどしない。 本田 宗一郎

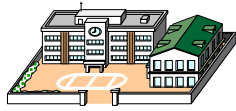


本田技研工業の創業者(1906~1991)で失敗を恐れず、何度も挑戦し、何度も失敗し続けた上で成功を掴み取った人です。

困らなきゃだめで、人間というのは困ることで、絶体絶命のときに出る力が本当の力だ。人間、やろうと思えば、大抵のことはやれると氏は言っています。

裏面へ

校長先生から



運動会・体育大会特集

東小学校より

全力で 笑顔の花を 咲かせよう！

10月1日(土)、好天にも恵まれ、広陵東小学校体育大会を開催することが出来ました。当日は、早朝より多くの保護者の方々にご来校いただき、子どもたちも張り切っていました。



今年の体育大会スローガンは、各クラスから意見を持ち寄り、代表委員会で話し合い、「全力で 笑顔の花を 咲かせよう」に決まりました。

子どもたちは、9月上旬より体育大会に向け、日々練習を重ねてきました。本番では、一人ひとりが自分の持てる力を精一杯発揮し、笑顔の花を咲かすことが出来ました。きっと、思い出に残る体育大会になったことでしょう。

北小学校より

何事も本気でやれば大成功！

気持ちのいい天気にも恵まれ、「笑顔で照らせ北小太陽」というスローガンのもと、久しぶりに表現活動をする児童たちの顔は笑顔でいっぱいでした。



小学校初めての体育大会でドキドキしていた1年生と、1年生を優しくリードして、かわいいダンスを披露した1・2年生の『マスカットダンス』。3・4年生は『サチアレ!!』とみんなに幸せを届けてくれました。5・6年生は高学年として『絆～支え合う仲間～』。かっこいい組立とソーラン節を披露し、終わった顔は本当に素晴らしい笑顔でした。

何事も 本気でやれば 大成功！

児童の笑顔と本気を見ることができた体育大会でした。今後もこの思いが日頃の生活と繋がっていくように教職員一同、心をひとつにしたところです。

真美ヶ丘第二小学校より

笑顔満開 ☺ 主役はみんなだ！

真美ヶ丘第二小学校は10月1日(土)に体育大会を開催しました。コロナ禍でもあり、二部制での開催となりましたが、児童は練習の成果を存分に発揮してくれました。

本校の体育大会スローガンは、「笑顔満開 ☺ 主役はみんなだ!!」でした。

今年は競技に加え、子どもたちが主役となる表現運動に各学年は取り組みました。また、6年生は親子競技として2人3脚を取り入れ、親子のほほえましい様子もご覧いただけたことと思います。

天候にも恵まれ、絶好の体育大会日和となり、子どもたちにとっては思い出に残る一日となりました。



6年親子競技

広陵中学校より

黒板アートで盛り上げ！

今日は、朝までの雨もやみ、30分遅れですが、第64回体育大会を実施することができました。これまでの取組を十分に発揮するとともに、精一杯楽しんだ一日となりました。



そして左下の写真は、体育大会に向けて、各クラスが昨夜遅くまで学級担任が描いていたものや、朝から登校してくれた生徒の皆さんが描いてくれた思いを黒板アートにしたものです。



きっと大会当日に向けて、クラスや学年がうまくまとまらなかったりしたことを乗り越えてきた成果が、これらの意気込みや当日の活動に反映し、生徒はもちろん、教職員も保護者の方々も涙する素晴らしい体育大会になったことと思います。

グラウンドに響く楽しそうな歓声を聞きながら、広陵中学校の皆さんの楽しい思い出の一つとして心に刻んでくれたと思います。

真美ヶ丘中学校より

雨を吹き飛ばしての秋の一日！

10月5日(水)に第37回体育大会を開催しました。前日の夜遅くから降った雨の影響で、グラウンドの状態が悪く、早朝より水たまりになっていたところから水を抜き、土を入れる作業を行いました。そのため、予定より1時間遅れの9時40分開始となりました。学級対抗で競技が進み、全員が優勝を目指して全力で競技に参加しました。応援席では学級旗を振りながら、競技をしている人に声援を送っていました。



最後に行われた3年生全員による集団演技では、マスクを取って楽しそうな表情でダンスを踊る姿が印象的でした。終了時間が遅くなってしまいましたが、全体的に素晴らしい体育大会になったと思います。

